

	ページ・項目・内容	修正前	修正後
1	目次 タイトル	4 今と将来両方の学校のこれから	4 今と将来両方の学校再編に向けて
2	P. 3 2 令和の日本型学校教育と門真のめざす教育の実現に向けたこれからの学校づくりの方向性 (1) 令和の日本型学校教育	—	<u>(追記) 門真市では、この実現に向け、「子ども主体の学び」、「探究的な学び」の充実に取り組んでいます。</u>
3	P. 4 2 令和の日本型学校教育と門真のめざす教育の実現に向けたこれからの学校づくりの方向性 (2) 門真のめざす教育	第5回審議会 資料を追加 	<u>(追記) 現在、国全体の人口が減少する時代に入っており、本市においても児童生徒数の減少傾向が続く中、学校の規模も小さくなりつつあります。児童生徒数に比べ学校数が多い（児童生徒が少ない小規模の学校数が多い）状態が続くことによって、門真のめざす人とのつながりが希薄になることに加えて、1つの学校にかけられる資源が分散してしまうことが課題となっています。</u> <u>本市では、異年齢や異学年、また、大人も含めた様々な年齢の人との関わりでできる「縦のつながり」や同学年、同級生、また、学校を越えた同年齢の子どもどうしとの関わりや、地域の人や保護者との関わりによってできる「横のつながり」の中で、様々な体験や協働をとおして、様々な考えに触れて他者理解を深め、多様な人とながら力を身につけながら、「将来の自分とのつながり」を創る環境が重要と考えます。そのため、学校を一定の規模に保ち、子どもたちが学校生活において多くのつながりを創る環境を創るとともに、限りある資源を集中することで教育の質を高めていくことが必要になります。</u> <u>子どもたちが協働的な学びの中で多様な人とながら、予測困難と言われる時代を切り拓く力をつけることができるよう、門真のめざす教育・令和の日本型学校教育の実現をめざして取り組んでいきます。</u>
4	P.14 5 具体的提言 (1) エリア分けを行う上での考え方と優先順位の考え方について	将来的な学校再編も見据え、市内中央付近の学校を維持すること 市内中央付近の学校を維持できる再編を検討することによって、将来さらに再編が必要な場合でも児童生徒の通学や市民の利便性を確保できると考えました。	将来的な学校再編も見据え、市内中央付近の学校を維持すること 市内中央付近の学校を維持できる再編を検討することによって、将来さらに再編が必要な際、児童生徒の通学距離の増加を最小限に抑えることが可能です。また、地域コミュニティ等との連携・協力やアクセシビリティも確保できると考えました。

答申全体・資料編

	ページ・項目・内容	修正前	修正後
5	P.19 留意事項 (1) 具体的提言の実現に向けた速やかな実施方針等の作成	門真市すべての子どもたちに対して、「多様な人とのつながり」や「多様な学びの場」の創出など、よりよい教育環境の整備が必要であることから、適切な順序性と、スピード感を持って学校再編を進めていく必要があります。 今後、具体的な優先順位や再編時期等を示した実施方針を速やかに策定し、着実に学校再編を進めることを期待します。	門真市すべての子どもたちに対して、「多様な人とのつながり」や「多様な学びの場」の創出など、よりよい教育環境の整備が必要で <u>す。その上で、エリアごとに再編・整備を進めていくのではなく、必要性に応じて、例えば、複数のエリアで同時並行的に再編・整備を行うなど</u> 、適切な順序性とスピード感を持って学校再編を進めていく必要があります。 今後、 <u>本答申の具体的提言をもとに、各エリアにおける</u> 優先順位や再編時期等を示した「実施方針」を速やかに策定し、着実に学校再編を進めることを期待します。
6	P.19 留意事項 (2) エリア再編を行う際の配慮	今回の具体的提言では、複数のエリアで校区の再編を提案しており、現状の校区が大きく変わるエリアが生じます。具体的な校区を定める際には、地域等の意見も踏まえながら、場合によっては、具体的提言に記載しているエリア分けやタイミングなど、柔軟性に見直しながら進めることも求められます。また通学先が変更となる児童生徒に対しては、経過措置や通学手段の検討などの配慮についても検討が求められます。～～	今回の具体的提言では、複数のエリアで校区の再編を提案しており、現状の校区が大きく変わるエリアが生じます。具体的な校区を定める際には、地域等の意見も踏まえ、エリア分けや <u>時期</u> などについて、柔軟性を <u>持ち</u> 、進めること <u>が</u> 求められます。また、通学先が変更となる児童生徒に対しては、経過措置や通学手段などの配慮についても検討が求められます。～～
7	P.19 留意事項 (4) 地域コミュニティの再編・充実	学校・校区の再編は当該地域コミュニティの再編にもつながることから、地域の現状を踏まえつつ、地域間の連携や融合の視点を持って進めなければなりません。地域とともにあるコミュニティ・スクールとしてや総合的な学習の時間における探究的な学び、地域行事等において連携・協力を図るなど、地域の特性・特色を活かした「縦のつながり」「横のつながり」を最大限活用できる学校を地域とともに創り上げていくことが重要です。	学校・校区の再編は当該地域コミュニティの再編にもつながることから、地域の現状を踏まえつつ、地域間の連携や融合の視点を持って進めなければなりません。地域とともにあるコミュニティ・スクールとしてや総合的な学習の時間における探究的な学び、地域行事、 <u>防災</u> 等において連携・協力を図るなど、地域の特性・特色を活かした「縦・横のつながり」を最大限活用できる学校を地域とともに創り上げていくことが重要です。
1	資料編 名簿	大阪公立大学 名誉教授	大阪 <u>市立</u> 大学 名誉教授

各エリアの具体的提言における修正点

北東エリア（P.15）

	修正前	修正後
1	修正なし	修正なし

南西エリア（P.16）

	修正前	修正後
1	①五月田小学校を沖小学校に統合する。	①五月田小学校と沖小学校を統合する。
2	② 第二中学校と第七中学校を統合する。なお校舎については、五月田小学校または第七中学校の校舎を活用する。	② 第二中学校と第七中学校を統合する。
3	③ 殿島町、松生町、深田町、柳田町、一番町、桑才新町（府道深野南寺方大阪線以北）については、北西エリアの再編に合わせ、南西エリアへ変更とし、沖小学校または二島小学校及び②の中学校への通学を検討する。	③ 殿島町、松生町、深田町、柳田町、一番町、桑才新町（府道深野南寺方大阪線以北）については、北西エリアの再編に合わせ、南西エリアへ変更とし、①の統合小学校または二島小学校及び②の統合中学校への通学を検討する。
4	④ 将来像として、南西エリアの児童生徒の減少に応じて、施設一体型の小中学校を検討する。	④将来像として、南西エリアの児童生徒の減少に応じて、 五月田小学校及び第七中学校敷地を活用した施設一体型も含めた小・中学校の設置 を検討する。

各エリアの具体的提言における修正点

北西エリア（P.17）

	修正前	修正後
1	③ ②の統合小学校は、現第三中学校区から門真はすはな中学校校区に変更する。これに伴い、第三中学校は廃止する。	③ ②の統合小学校は、現第三中学校区から門真はすはな中学校校区に変更する。これに伴い、 第三中学校と門真はすはな中学校を統合 する。

南東エリア（P.18）

	修正前	修正後
1	「義務教育学校で創る、特色のある教育を活かす再編」	「小中一貫校（※義務教育学校）で創る、特色のある教育を活かす再編」（文言の修正ならびに、注釈をつけています） ※義務教育学校…小中9年間の義務教育を1つの教職員組織で一貫して行う学校のこと。

エリア全体

	修正前	修正後
1	（各エリアの図の情報が多いため、簡素にしてほしい。）	該当エリア以外の学校情報については、校名以外削除し、見やすくなるよう修正しました。